

生活科の実践

札幌市

相手意識を高めることで遊びの質が高まる

生活科

2年

つくってなかよく

<http://www.fan.hi-ho.ne.jp/douseiren/>
この指導案は、上記のHPよりダウンロードすることができます



単元の導入は、牛乳パックで遊びを作る活動を行いました。こだわりの遊びが出てきたところで、保育園の園児と出会わせて、自分たちのこだわりの遊びで楽しませたいという思いや願いを引き出していきます。自分たちではなく、保育園の園児への相手意識から、遊びは変容していきます。

学習活動の流れ（16時間）

牛乳パックで作った遊びを価値付けていくために、遊びを認定していきました。

牛乳パックで遊んでみよう（8）

- ・給食で使っている牛乳パックで遊べないかな？
- ・遊びを発明しよう
- ・なにができるかな
- ・かさねるだけでもたのしいよ

保育園の園児と一緒に楽しもう（8）

- ・保育園に行って一緒に遊んでみよう
- ・保育園の園児に自分達の遊びを紹介しよう
- ・みんなでたのしく遊ぶために作戦を変えて遊ぼう
- ・牛乳パック

3回交流を行いました。相手を知るところから始まり、遊びを改良していくという段階を経ることで、工夫が生まれました。

身の回りにある素材を使ってこだわりの遊びを作りました。同じ敷地内にある保育園の園児を楽しませるために、その遊びを改良していきます。



まずはどう作ろう？

教材・活動の Point!

1. 素材を絞ることで、創造力を高める

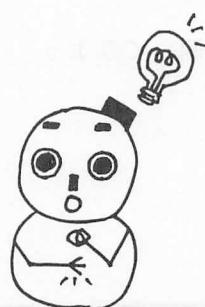
素材を限定し、手で操作する中で起こる偶然から、子どもたちは遊びを発明していきます。簡単なものから難易度の高いものまで、たくさんの遊びが生まれだし、ルールある遊びが生まれていきます。

2. 園児との交流から、相手意識を生む

誰かと遊んでみたいという思いが生まれることで、遊びのルールや方法が生まれていきます。また異学年の人と会うことで、ルールや方法を変えていきました。今回は、「保育園のお友達と遊ぶために」という視点を考えることから、相手意識が生まれていきます。



3. 活動の繰り返しで、思いや願いを実現させる



一度だけの遊びや人とのかかわりでは、思いや願いの実現は難しく、必ずしもひとりひとりに気付きが生まれるとは限りません。「もの、ひと、こと」などの対象を向き合う機会をつくることと、思いや願いを明確にしていくことで、子どもに気付きが生まれ「もっと～したい」という意欲が生まれていきます。